平成二十二年二月十日（水）

衆議院予算委員会

議事録

午後三時一分開議

◇

○鹿野委員長　これより会議を開きます。

平成二十二年度一般会計予算、平成二十二年度特別会計予算、平成二十二年度政府関係機関予算、以上三案を一括して議題とし、一般的質疑に入ります。

質疑の申し出がありますので、順次これを許します。豊田潤多郎君。

○豊田委員　民主党の豊田潤多郎でございます。

私の方からは、きょうは、質問要旨でお配りしておりますが、財政改革のことにつきましてお尋ねをいたしたい、あるいは閣僚の皆さんの決意、考え方をお聞きしたいと思っております。

そこにございますが、三点、第一に財政危機の現状についてということと、それから今日の深刻な財政危機に至った経緯とその原因、それから最後に、財政再建の具体策についてということで話を進めてまいりたいと思っております。

お手元に資料をお配りしております。資料の一、二、三とございまして、専ら、お尋ねするテーマの、まず財政危機の現状と至った経緯につきまして、まず私の方から概略をこの資料に基づいて、よくおわかりのこととは思いますが、御説明し、その後、具体的な財政再建の対策、具体策につきまして閣僚の皆さんからいろいろお聞かせを願いたい、このように思っております。

まず資料の一でございますが、これは、ここにございます「一般会計の歳出、税収及び国債発行額」ということで、ちょっと長いタームで、四十年というタームでとっております。一番左端が昭和四十五年、一九七〇年でございまして、右端が平成二十一年、二十二が二〇一〇ということになりますけれども、これで四十年間のタームでとっております。

御案内のように、特例公債の発行が始まりましたのが昭和五十年ということで、下のこの棒グラフの緑の部分が建設国債、それから上の方の紫色が特例公債という赤字公債であります。ごらんのとおりで、一般会計の税収が赤の折れ線グラフ、一般会計の歳出が全体の青の折れ線グラフということで、これは見ていただくということで、いわゆるフロー、毎年のフローで見た国債の発行額等の推移であります。

次の資料二をおめくりいただきまして、資料の二は、これはストックで見た、同じ四十年のタームで、国債発行残高等々がどうなってきているかということの、これはストックベースでございます。左端が絶対額の兆円、単位は一兆円であります。それから、右側、これは国、地方の長期債務残高の対ＧＤＰ比ということで、この緑の折れ線グラフが、右の指数、ゼロから上が一七〇、こうなっておりますが、このように推移をしてきている。まさに、平成二十一年度で見ていただきますと、国、地方の長期債務残高、一番右端ですが、これが八百十六兆円。これは第一次の補正後の数字です。それから、対ＧＤＰ比、これが一六九％と、国内総生産の一・七倍という数字になっているということであります。

それから、もう一枚おめくりいただきまして、資料の三でございます。これは先進七カ国の、大ざっぱに言いまして、政府債務残高はいろいろな統計のとり方があります。ＯＥＣＤの資料をもとにしておりますので、社会保障基金というようなものも諸外国との制度の関係で含んでおりますが、大ざっぱに言いまして、要するに、国の借金、国家の借金が対ＧＤＰ比で、これは実は二十年のタームでとっております、最初の資料一と二が四十年ですが、残りの直近二十年でこの資料はとっておりますが、一番左端の一九九一年というところを見ていただきますと、当時一番悪かったというのがイタリアであります。その次がカナダ、それからアメリカ、日本。日本はわかりやすいように赤丸をしてあります。そして、フランス、ドイツ、イギリスという形で来ているわけです。これがごらんのように日本だけ突出して、右端を見ていただきますと、一八九・六％という形で、日本がこ